2) 確認・対応の方法

(a) 上陸状況

a) 原因究明調査の実施

ウミガメ類の上陸状況が影響の判断基準を超過した状態が確認された場合は、基準の超過が確認された区域での砂浜の状況を踏査し確認するとともに、工事中の水の濁り等の事後調査結果及び気象・海象等のデータを収集し、判断基準を超過した原因が工事の実施に伴う環境変化によるものか、あるいは自然環境の変動によるものかについて検討する。

ウミガメ類の上陸数は、上陸する海浜周辺の環境変化だけでなく、海水温の変化など外洋環境の変化によって影響を受けることが知られている。事業実施海域周辺におけるウミガメ類の上陸数と鹿児島県全域における上陸数を対比させると、図-1.5.5に示すように平成 19 年度から 20 年度にかけての大きな増加、21 年度の減少、22 年度の増加等、両地域の上陸数の推移に類似した傾向がみられ、事業実施区域周辺におけるウミガメ類の上陸数も外洋環境の変化によって影響を受けている可能性が考えられる。

このため、ウミガメ類の上陸状況の変化の原因の究明にあたっては、対象とする区域における変化の傾向をみるとともに、全国的な上陸数の変化の傾向とも対比させて行うこととする。

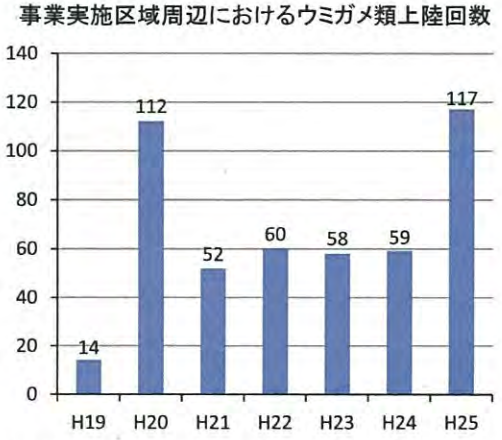


図-1.5.5　事業実施海域周辺におけるウミガメ類の上陸回数と鹿児島県全域における上陸回数

注）：鹿児島県全域の上陸数は鹿児島県 HP（https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/kankyo/yasei/umigame/documents/2666_20131121113910-1.pdf）をもとに作成。

b) 対策の検討

影響の原因が工事によるものと判断された場合は、原因と考えられる施工方法の見直しや新たな環境保全措置の検討を行うこととする。

(b) 工事海域への来遊（接近）状況

ウミガメ類が工事海域へ来遊（接近）し、工事用船舶によるウミガメ類の移動経路の阻害やウミガメ類の工事区域からの逃避行動が確認され、工事がウミガメ類に影響を及ぼす可能性があるような状態が継続していると判断される場合は、施工方法の見直しや新たな環境保全措置の検討を行うこととする。

以上の環境影響の判断に係る確認・対応フローを図-1.5.6に示す。

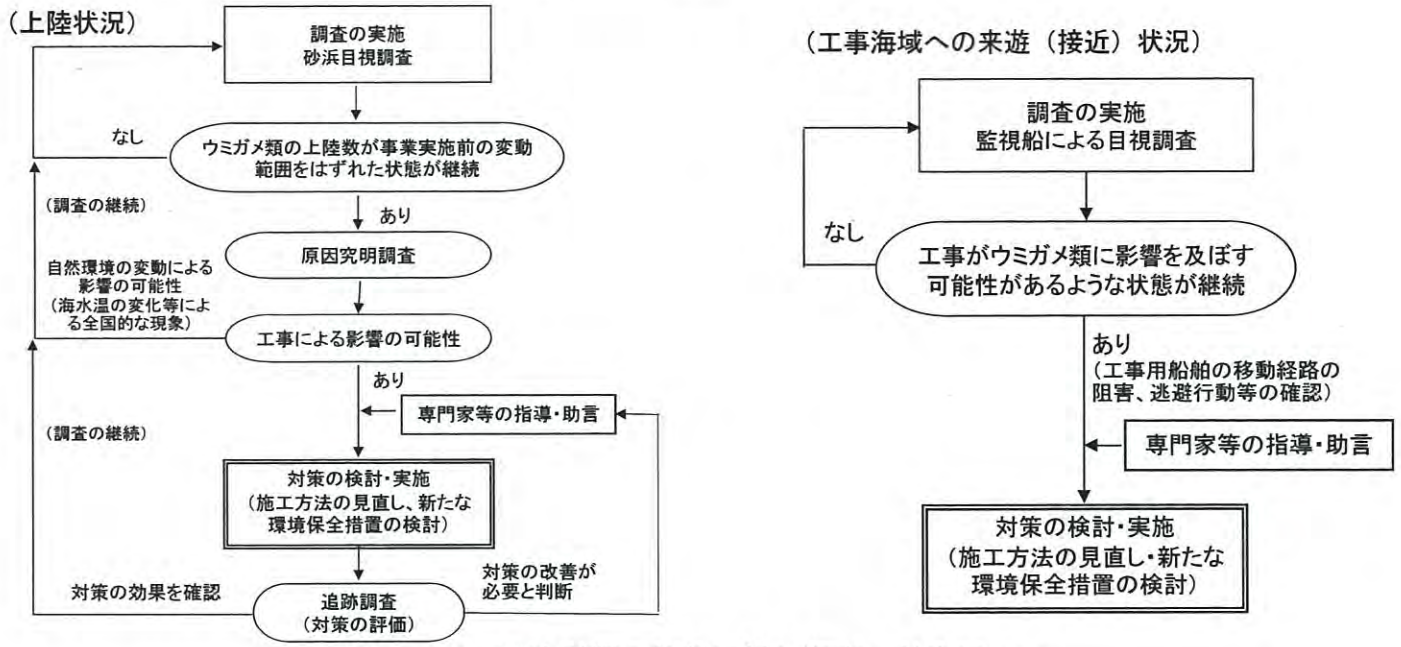


図-1.5.6　環境影響の判断に係る調査・対応フロー

【参考：評価書における工事中のウミガメ類に係る事後調査に関する記載内容】

環境要素	事後調査を行うこととした理由	事後調査の項目及び手法						事後調査の結果により環境影響の程度が著しいことが明らかになった場合の対応の方針
		調査項目			調査地点・範囲	調査時期・期間	調査方法	
海域生物、海域生態系	ウミガメ類、サンゴ類、海藻草類、ジュゴン及び海域生物(海上ヤード周辺及び大浦湾奥部干潟)については、環境影響の回避・低減に係る措置を講じるものの、その効果に係る知見が必ずしも十分ではなく、効果が発揮されない場合には、環境影響の程度が著しいものとなるおそれがあるため、事後調査を行い、その結果を踏まえて、必要な措置を講じる。	ウミガメ類	上陸状況	工事中の夜間照明による上陸産卵忌避影響	工事施工海域及びその周辺（松田地先～嘉陽地先）	工事期間中、年度毎に4月～10月の上陸・産卵期に毎月2回程度の踏査	調査員による砂浜目視調査	環境影響の程度が著しいと判断する基準 ・事業実施前における各種調査データの変動範囲をはずれた状態の継続 ・移植・移築先における移植・移築対象生物種の顕著な減少 これらの状況が生じた場合は、専門家等の指導・助言を受けて、環境保全措置の改善を図る。
			工事海域への来遊（接近）状況	ウミガメ類の工事海域への来遊（接近）状況（工事施工海域への接近を監視する）	工事海域及びその周辺（豊原地先～安部崎地先）	工事期間中、毎日調査	工事実施時間帯に監視船を出し、船上からの目視調査（ジュゴンと併せて実施）	

1.6 サンゴ類

(1) 調査項目

評価書においては、下記の項目を調査項目としている。

① 分布状況：サンゴ類の生育被度、生育状況、食害生物の出現状況等

② 移植サンゴの生息状況：消失するサンゴ群集の移植先での生息状況、成長度合

③ 幼サンゴの加入状況：幼サンゴの着床及び成長度合

(2) 調査地点・範囲

1) 評価書における予測結果

(a) 工事中の水の濁り、堆積による影響

・水の濁りの予測結果のうち、1年次10ヶ月目においては、評価基準としたSS2mg/L以上の濁りが、サンゴ類の生息範囲の一部でみられるが、注目すべきサンゴ群生の分布域及び比較的高被度の生息範囲には拡散しないものと予測された。しかし、4ヶ月目においては、SS 2mg/Lを上回る濃度が施工区域の南側に広範囲に広がり、辺野古地先及び大浦湾湾口部におけるサンゴ類の生息範囲の半分程度の範囲までSS 2mg/L 以上の濁りが拡散するものと予測された。このため、埋立区域の周辺に汚濁防止膜を追加展張し、濁りの拡散を防止する対策を講じることとした結果、濁りの拡散は当初計画と比べて低減し、SS 2mg/L 以上の濁りは注目すべきサンゴ群生の分布域及び比較的高被度の生息範囲には拡散しないものと予測された。

・濁りの堆積による影響について、堆積量をSPSS 値に換算した結果によると、サンゴ類の生息範囲においては工事中の濁りの堆積に伴うSPSS値の増加は小さいと予測されている。

・ケーソンを仮置き時に作業船が海上ヤード周辺でアンカーを設置する範囲内にサンゴ類が生息しているため、アンカー設置によりサンゴ類が影響を受ける可能性がある。

・ケーソンの仮置きに伴う潮流、底質及び海底地形の変化は小さく、海上ヤード周辺のサンゴ類の生息環境に与える変化は小さいと考えられる。

(b) 海面の消失に伴う影響

・施設等の存在に伴う海面の消失により、大浦湾側のサンゴ類の生息域が一部消失する。被度5%以上の群生地の消失面積は6.9haと予測されている。

・本調査海域のサンゴ類は、白化現象により分布範囲、被度が大きく低下しているが、条件が整えば今後は回復する可能性がある。このような生息ポテンシャル域のうち、大浦湾西側海域の約30haが施設等の存在に伴い消失すると予測されている。

(c) 海岸地形の変化に伴う影響

・事業実施区域周辺のサンゴ類の生息範囲においては、サンゴ類の生残に影響を及ぼすような高波浪の状況は施設等の存在時においても現況と変化がないと考えられる。また、成長に影響を与えるような代表波浪及び流れについても現況と大きな変化がなく、おおむねサンゴ類の成長にとって良好と考えられる範囲にある。同様に、波浪の変化に伴う浮遊砂の移動は、サンゴ類の生息範囲においては少ないこと、施設等の存在に伴う水温、塩分の変化がサンゴ類の生息環境に及ぼす変化は小さいことから、サンゴ類の生息環境に及ぼす変化は小さいものと考えられている。

・事業実施区域周辺は、平成10 年及びその後も断続的に発生した白化現象によりサンゴ類の生息範囲、被度が大きく減少し、サンゴ礁生態系の再生が望まれる海域である。このため、今後のサンゴ類の幼群体の加入状況について事後調査を実施し、幼群体の加入状況の結果を検討したのち、事業者が実行可能な環境保全措置の検討に努めていくこととするとしている。

2) 現況におけるサンゴ類の分布・生育状況

(a) ライン調査、スポット調査による分布状況調査結果

平成 19～24 年度には、80 測線（平成 19 年度のみ 29 測線、ただし、マンタ調査を実施）を対象としたライン調査と、ライン調査の結果を補完するための 128 地点におけるスポット調査を実施している。これらの既往調査結果に基づくサンゴ類の分布状況を図-1.6.1に示す。サンゴ類の分布域は、辺野古前面海域ではリーフ上からリーフ外縁部、大浦湾では湾口部、湾奥部及び湾東側であり、被度の高い箇所は辺野古前面海域では平島から南西約 1km の位置、辺野古漁港の沖合約 1.5km、大浦湾では湾口部、湾奥部及び湾東側にみられた。低被度域を含めた全体の分布範囲及び比較的被度が高い範囲は大きな変化はみられない。ただし、部分的には自然変動によるものと考えられる経年変化が考えられる。

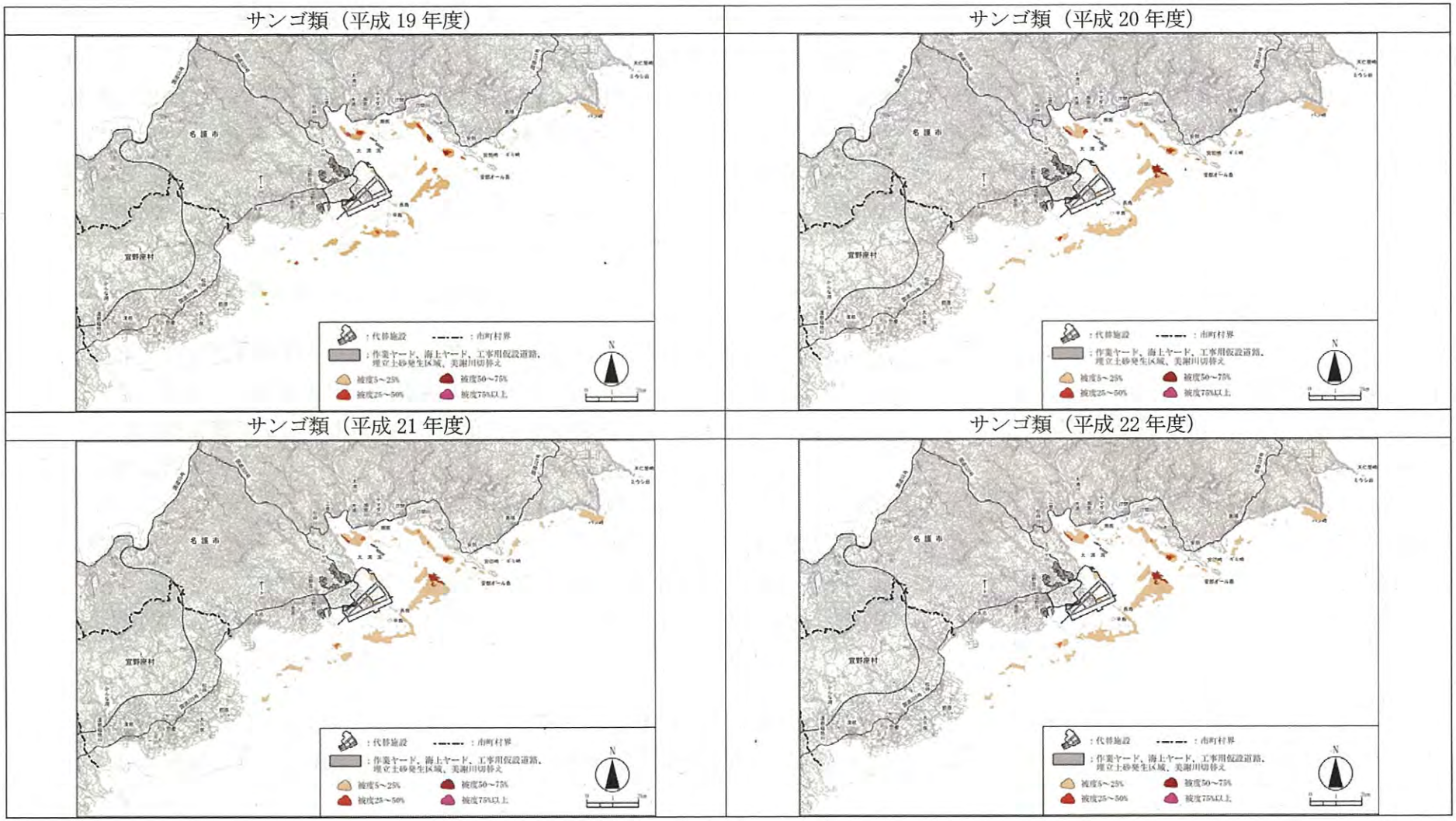
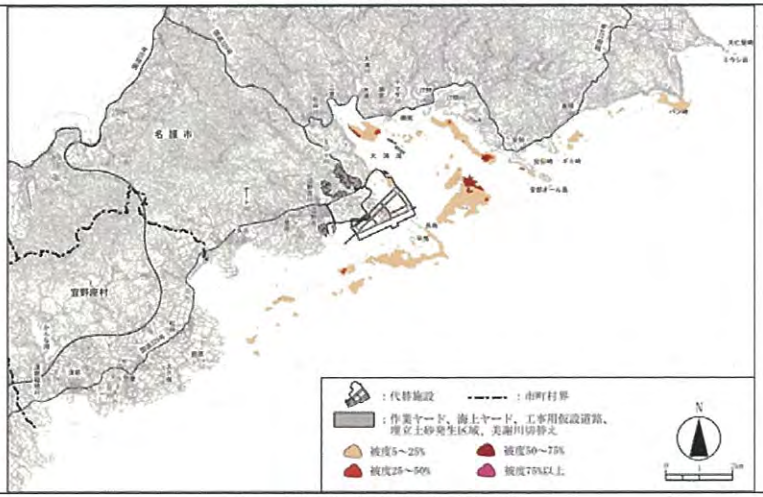
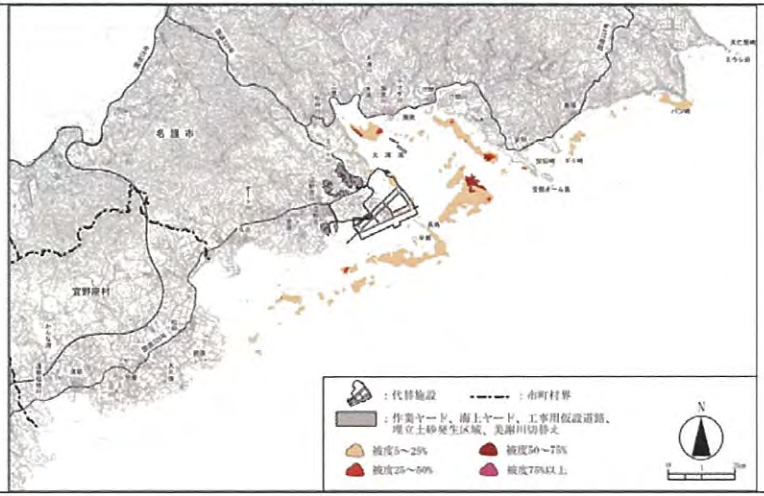


図-1.6.1(1)　　サンゴ類の分布

サンゴ類（平成 23 年度）



サンゴ類（平成 24 年度）



サンゴ類（平成 25 年度）

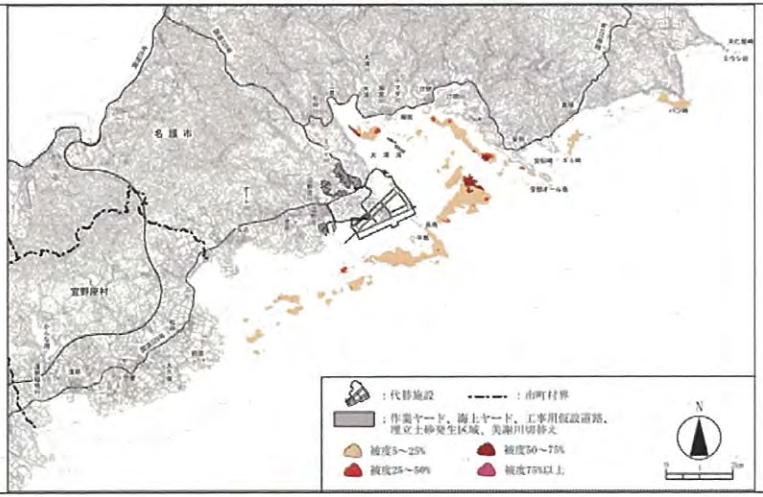


図-1.6.1(2)　　サンゴ類の分布

(b) スポット調査による詳細観察結果

平成 19～24 年度のサンゴ類調査では、128 地点においてライン調査の情報を保管する目的で対象とした地点におけるサンゴ類の被度及びサンゴ類の種類を判別した。さらに、図-1.6.2に示す 10 地点において、5m×5m の範囲のサンゴ類の分布をスケッチし、それぞれの地点内において、食害生物の分布や生育状況を詳細に観察している。

5m×5m の範囲の分布状況のスケッチの結果を図-1.6.3に示す。この結果によると St.122 の藻類の着生や、他の複数の地点において小さなサンゴ群体が出現・消失するなどの変化がみられるが、各地点とも、その場のサンゴ群落に大きな変化はみられていない。なお、各地点では個々のサンゴ群体の成長を測定するといったさらに詳細な観察も実施している。

図-1.6.2　全スポット調査地点及び詳細観察地点（10 地点）

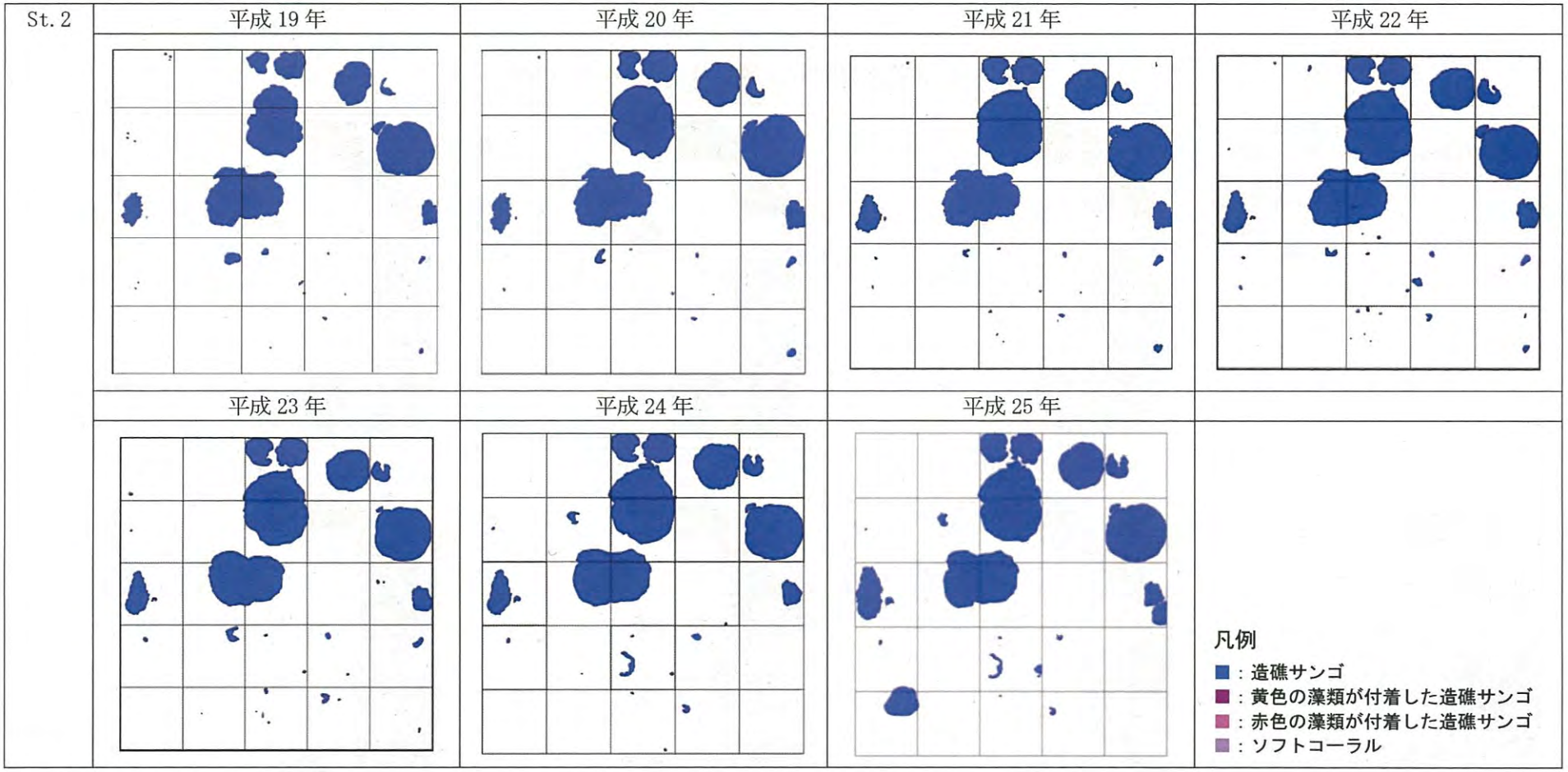


図-1.6.3(1) サンゴ類の詳細観察結果（St. 2）

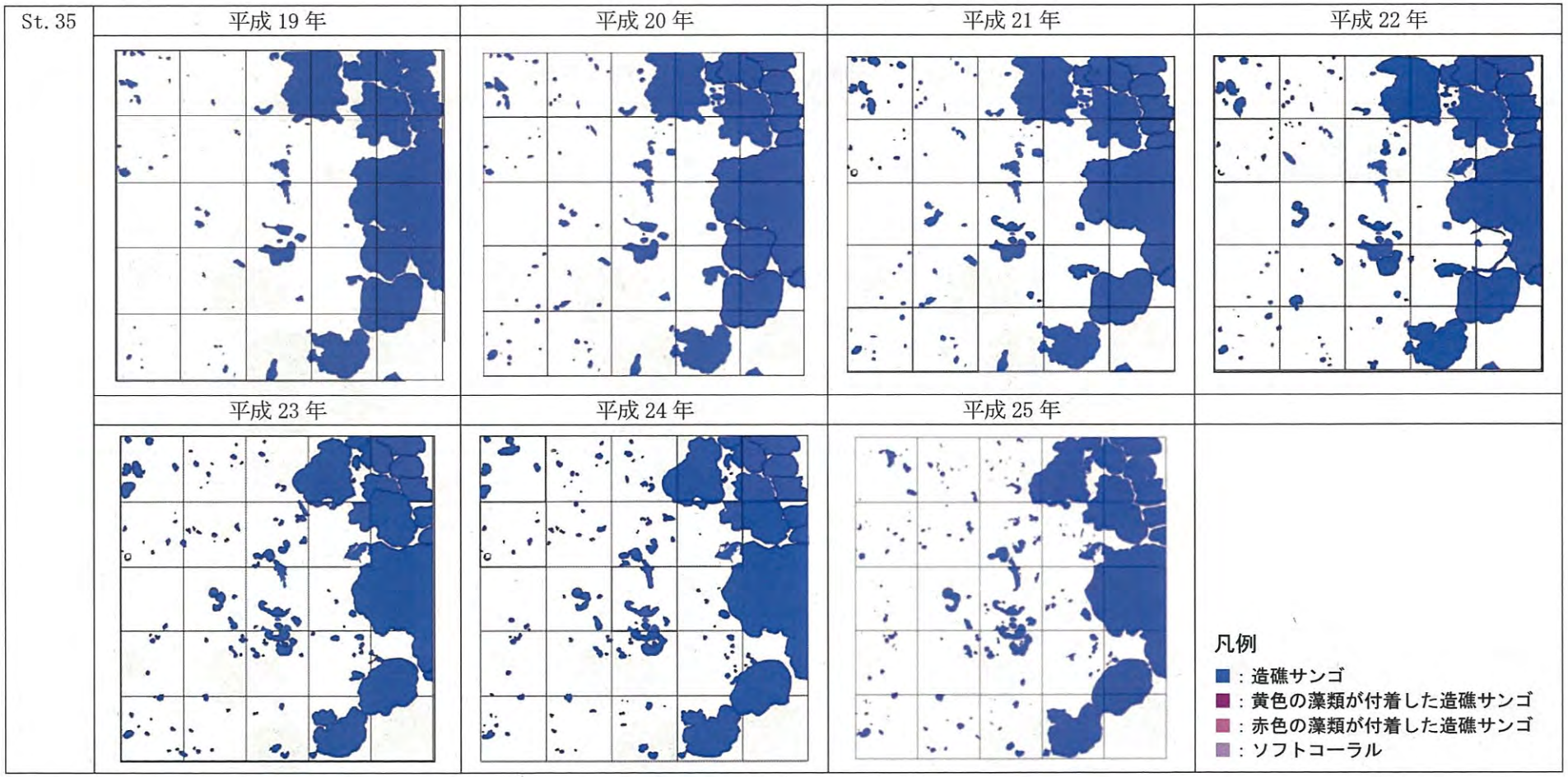


図-1.6.3(2) サンゴ類の詳細観察結果（St. 35）

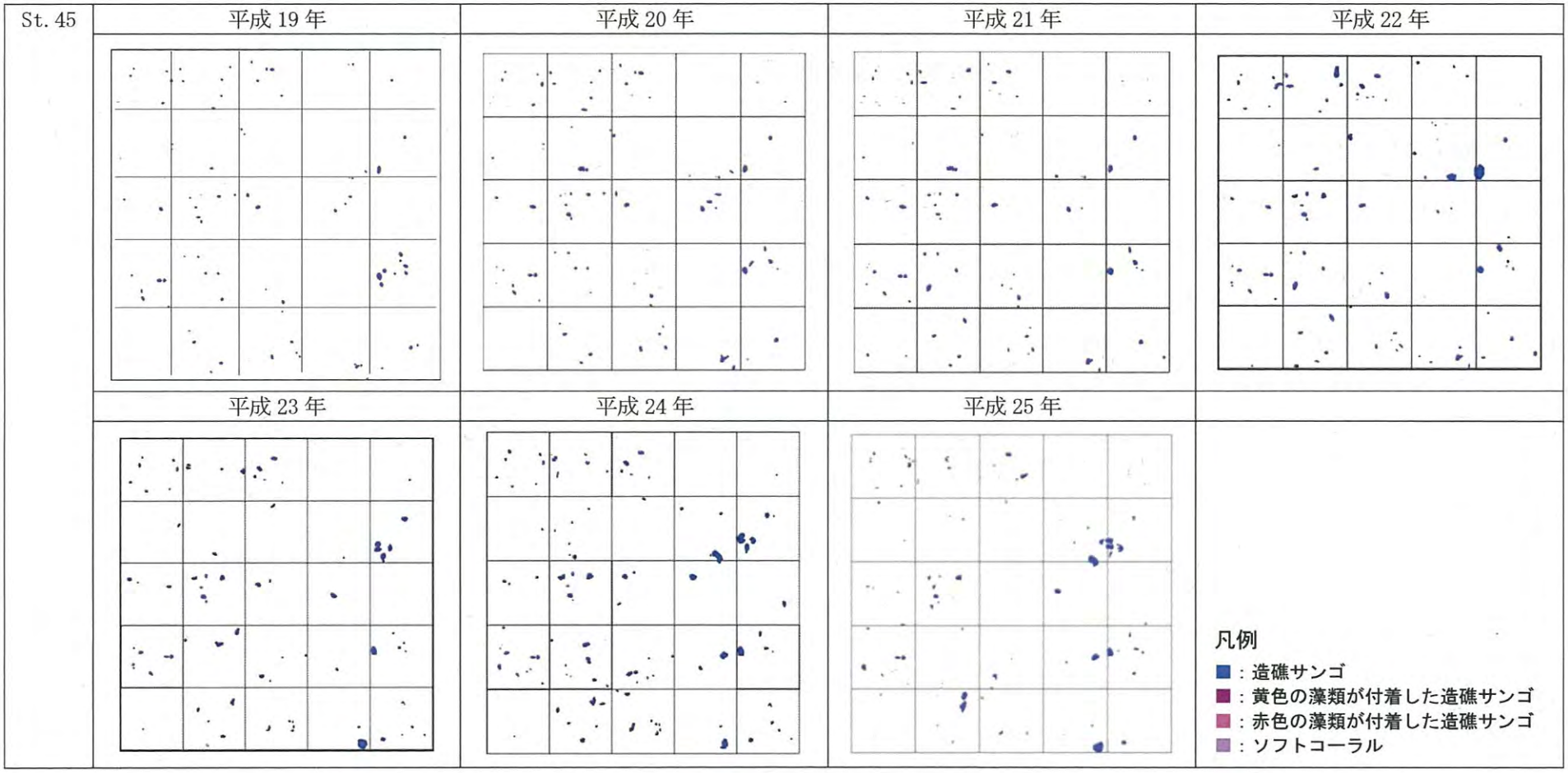


図-1.6.3(3) サンゴ類の詳細観察結果（St. 45）

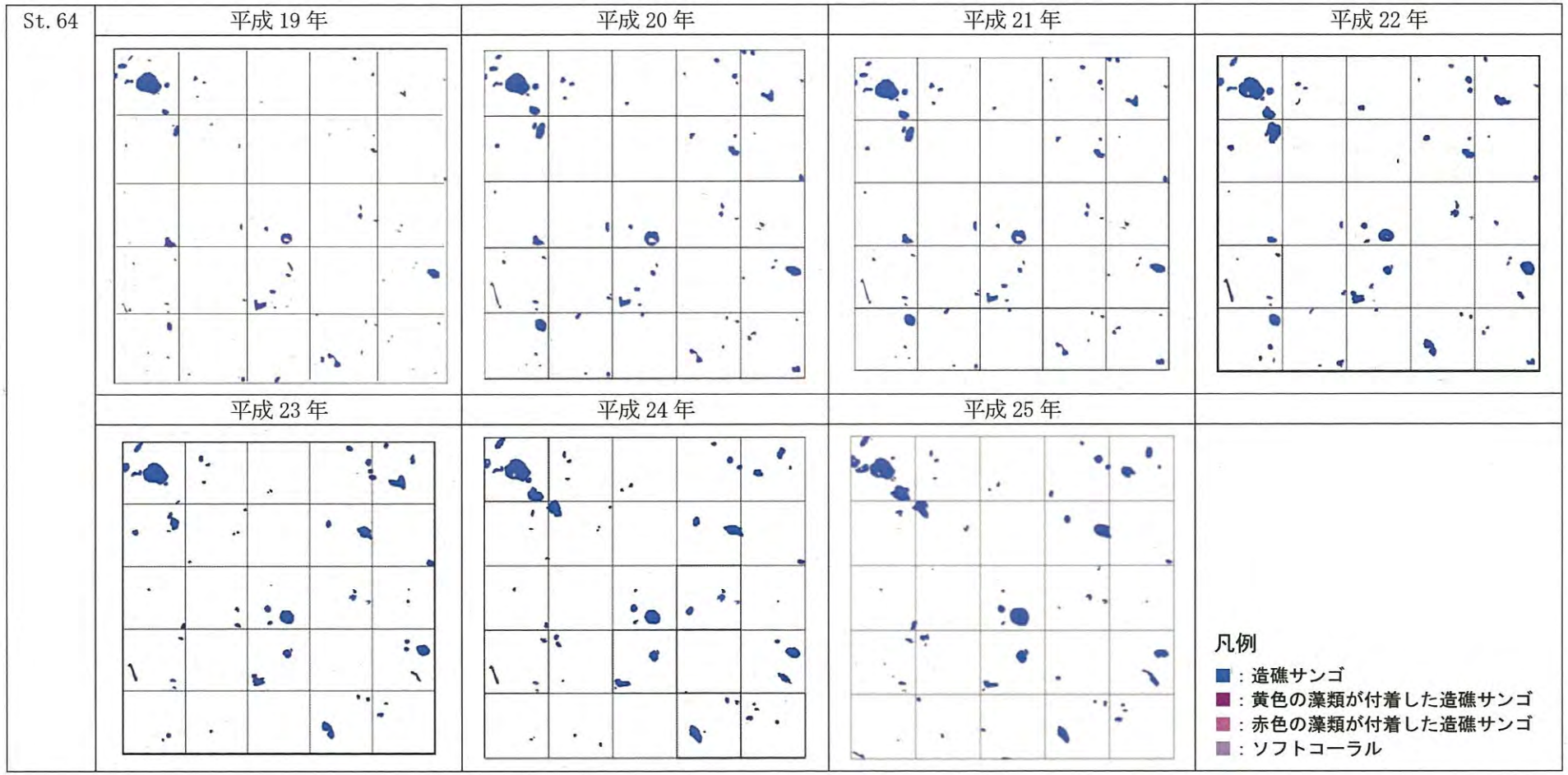


図-1.6.3（4）サンゴ類の詳細観察結果（St. 64）

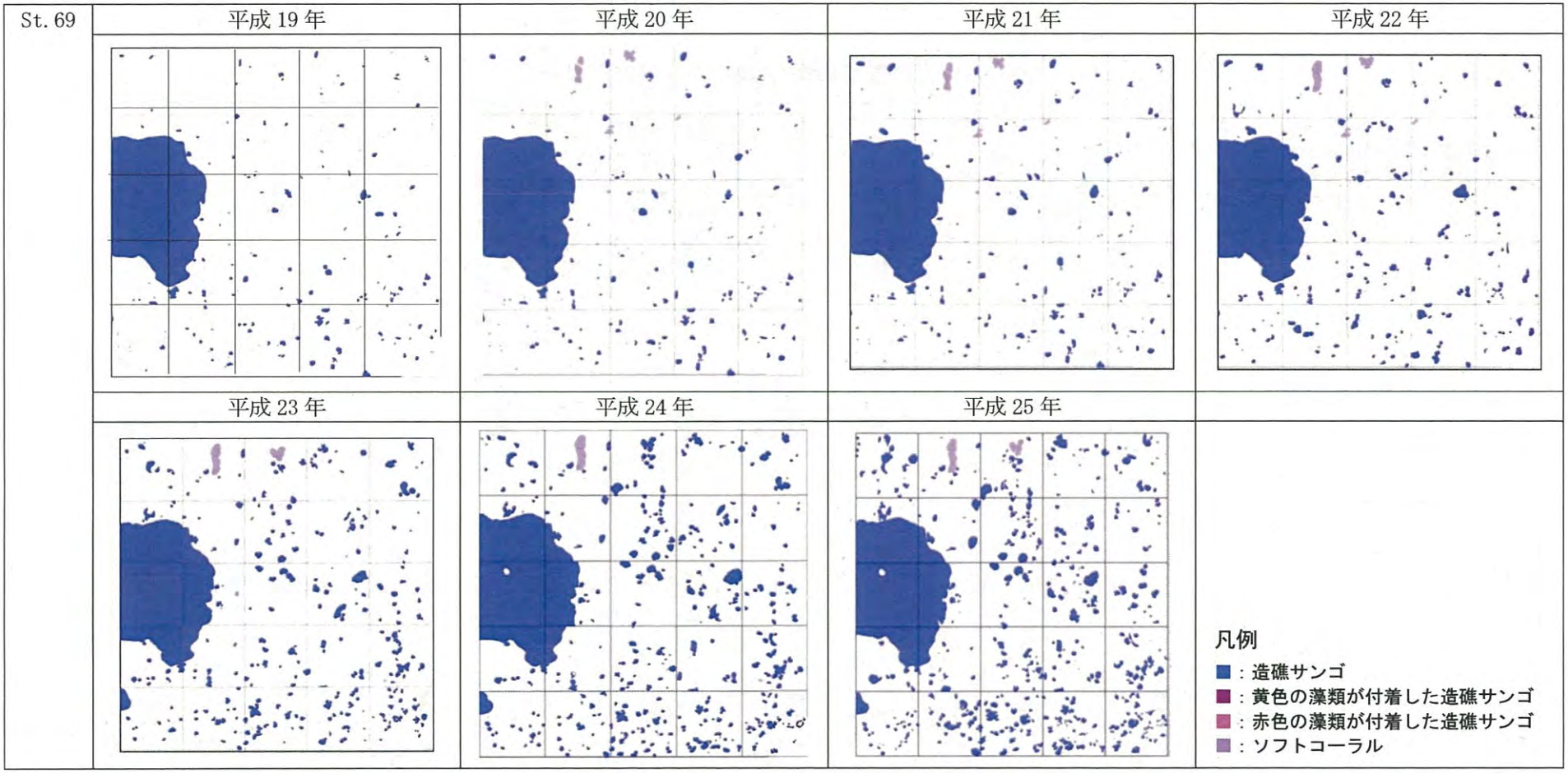


図-1.6.3(5) サンゴ類の詳細観察結果（St. 69）

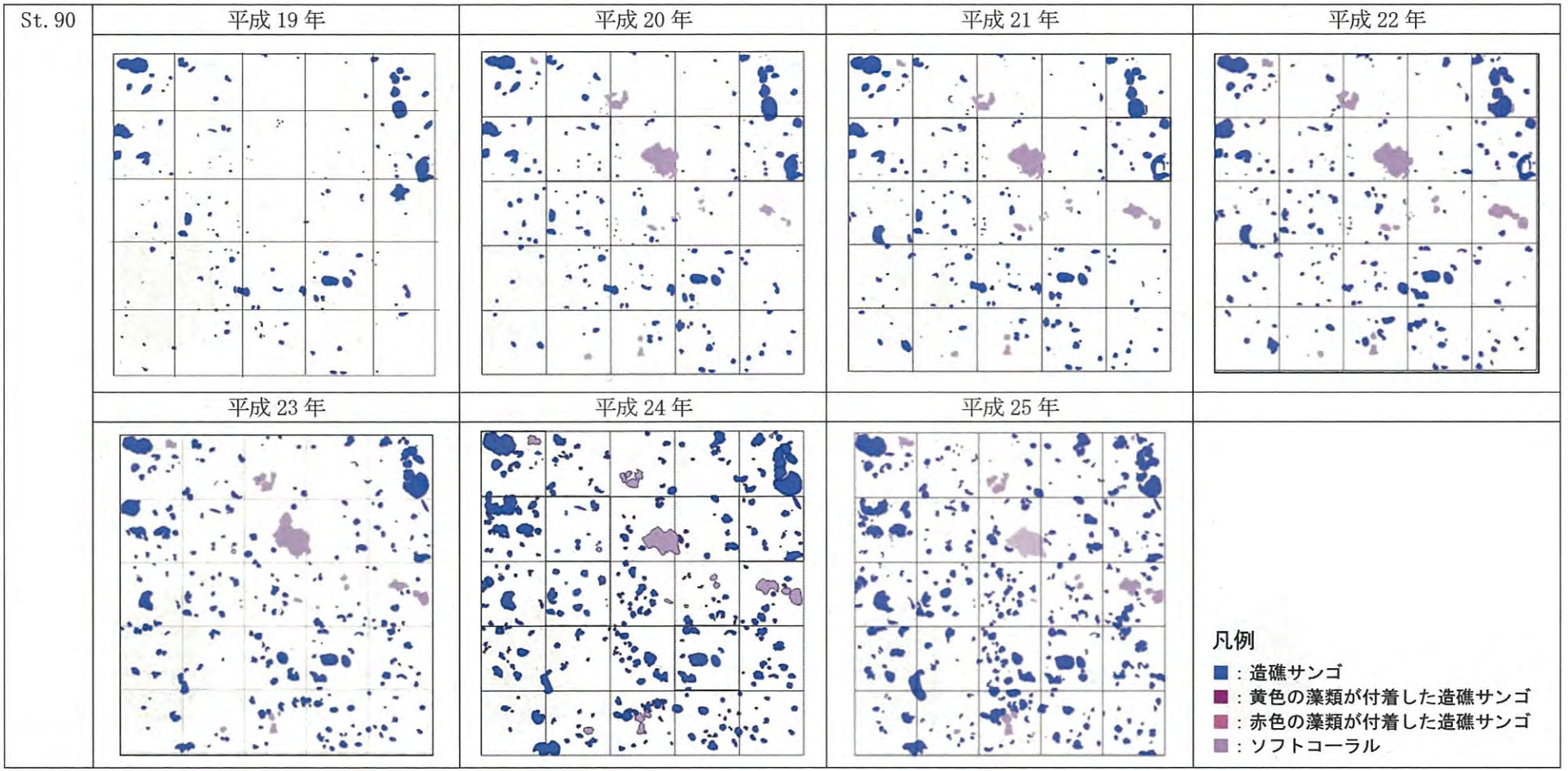


図-1.6.3(6) サンゴ類の詳細観察結果（St. 90）

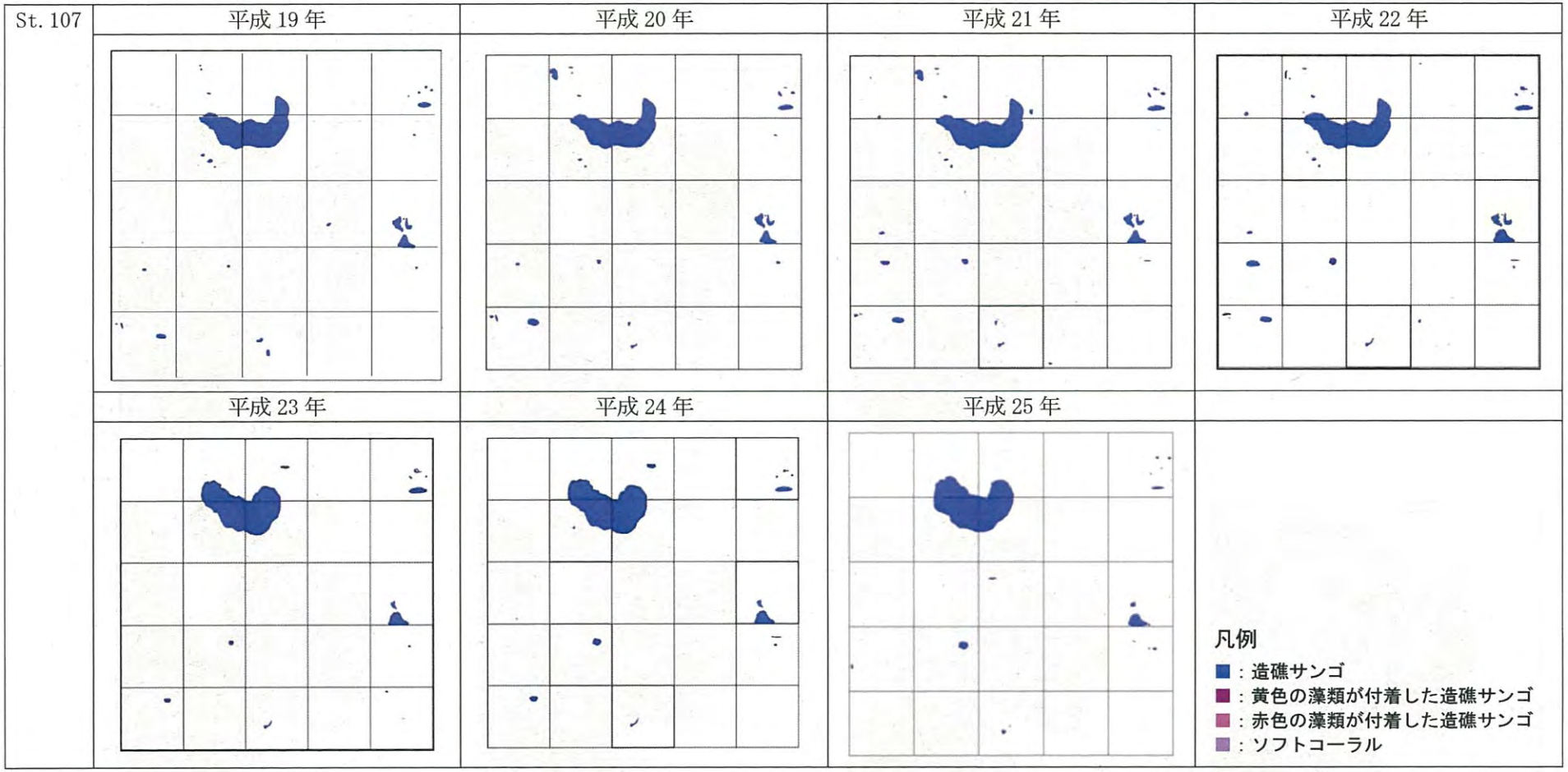


図-1.6.3(7) サンゴ類の詳細観察結果（St. 107）

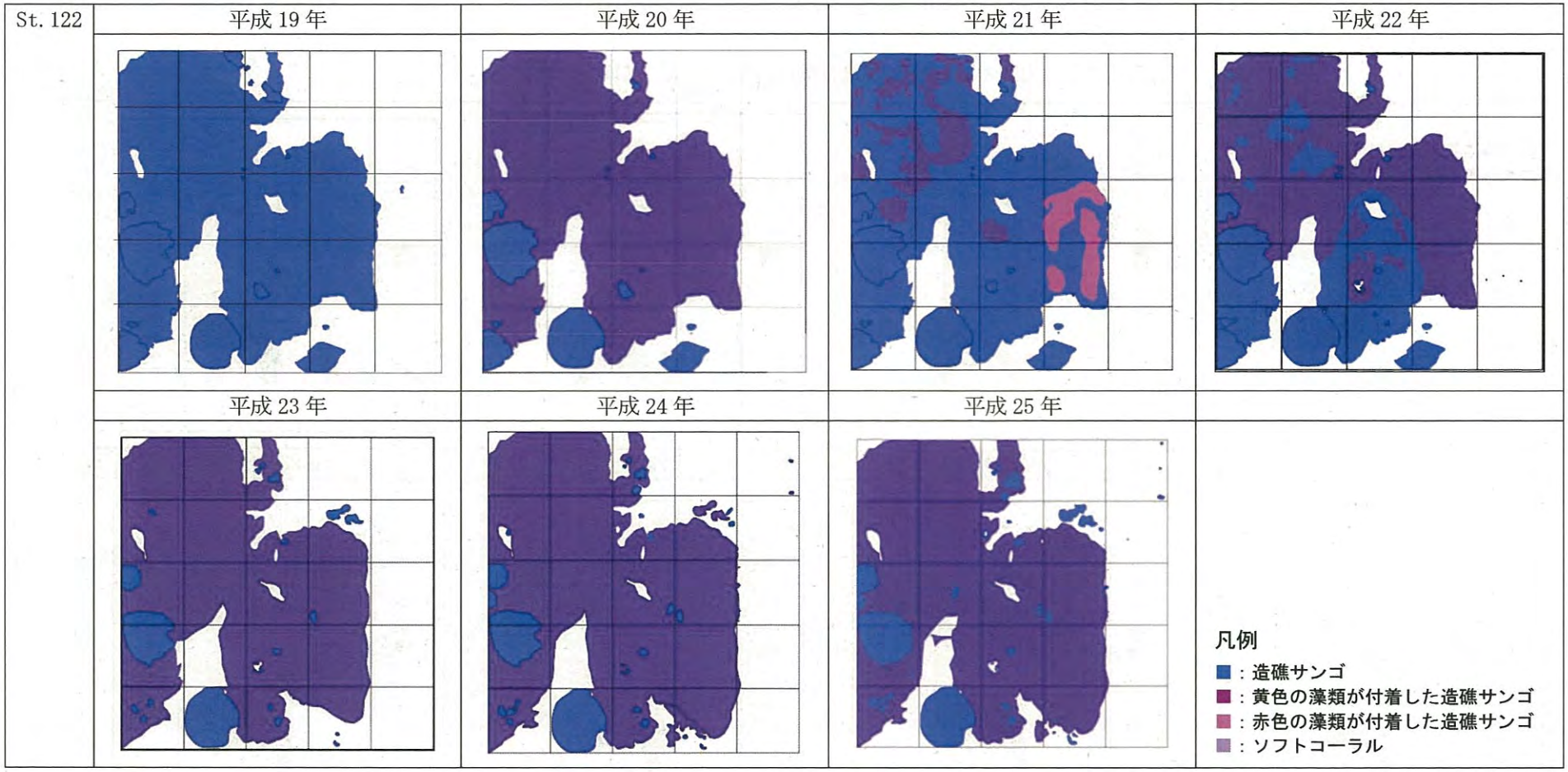


図-1.6.3(8) サンゴ類の詳細観察結果（St. 122）

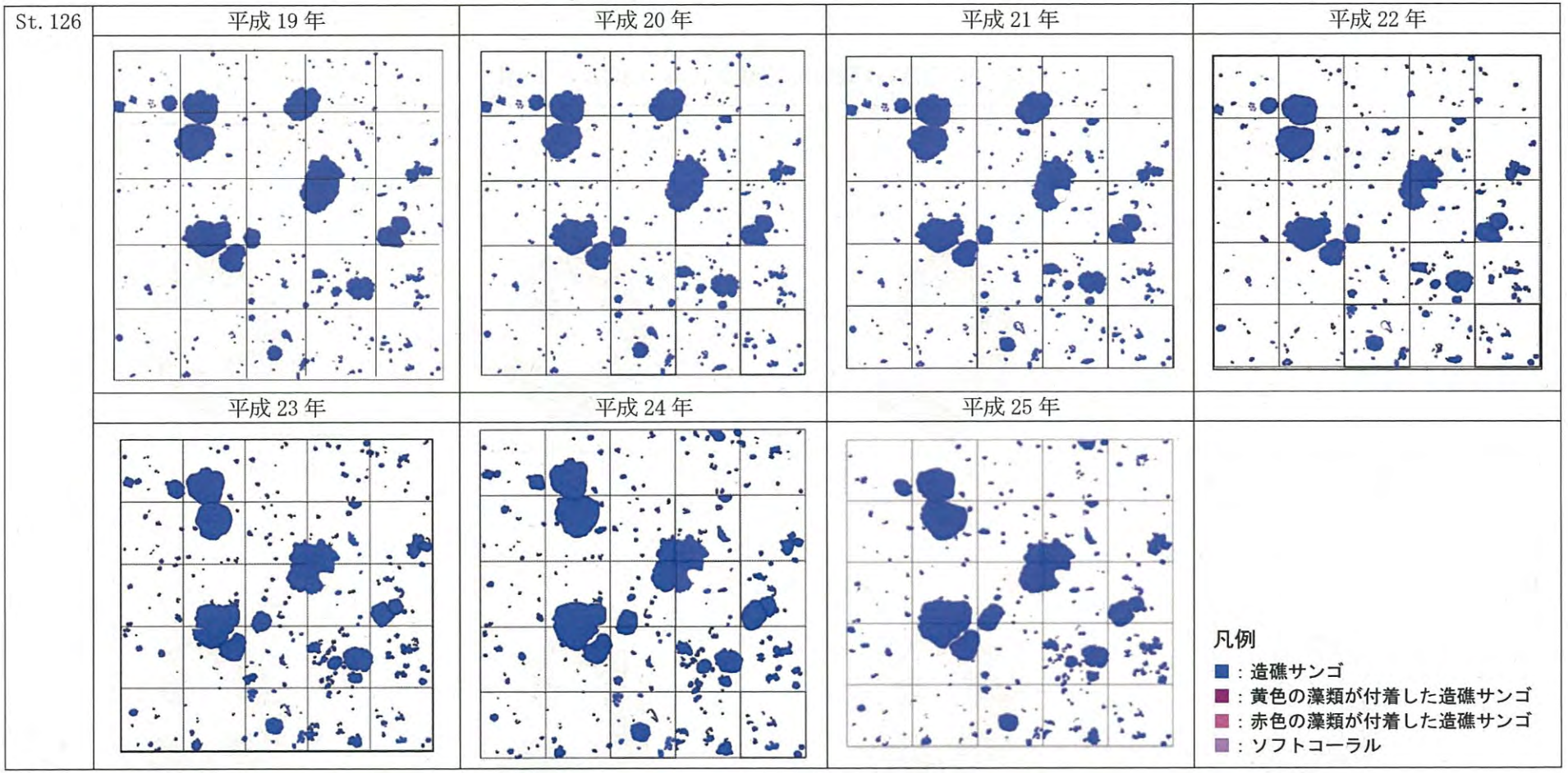


図-1.6.3(9) サンゴ類の詳細観察結果（St. 126）

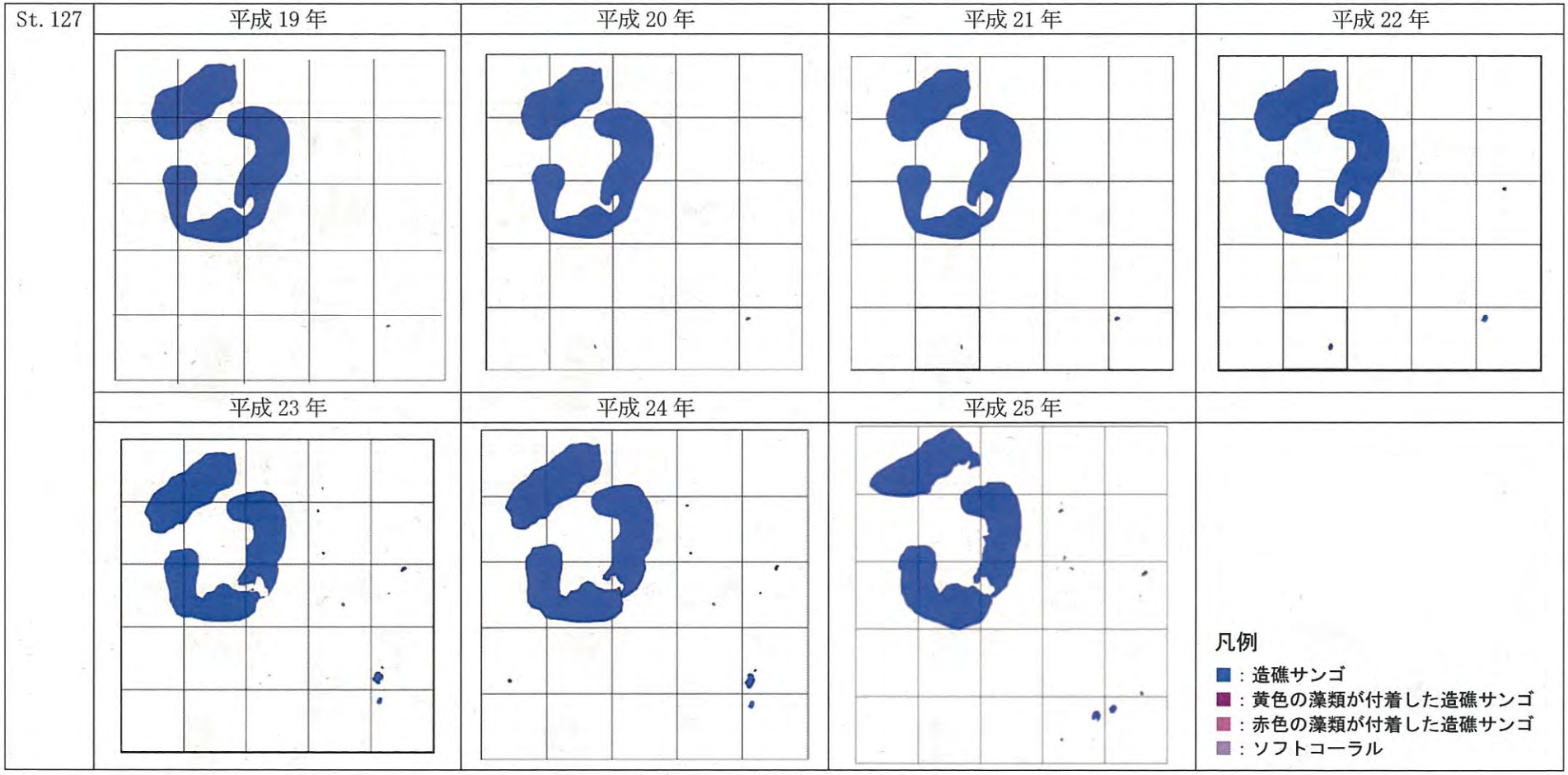


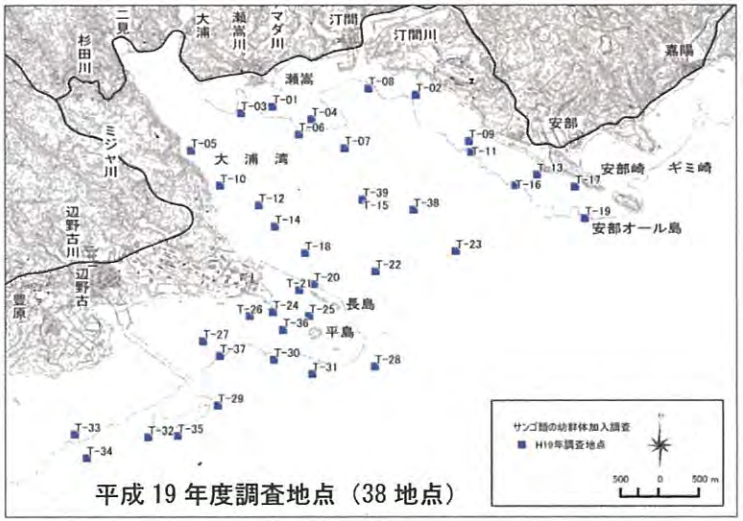
図-1.6.3(10) サンゴ類の詳細観察結果 (St. 127)

(c) サンゴ幼体の加入状況調査結果

平成 19、20 年度の現況調査では、サンゴ類の浮遊幼生が着生する状況を把握するため、セラミック製の着床基盤（着床具）を図-1.6.4に示す多数の地点の海底に設置し、数ヶ月後にその一部を回収して幼群体の着生する幼群体を計数することによって、地点ごとの様態の加入状況を把握した。

平成 21～25 年度では本調査は実施しなかったが、平成 26 年度は、事業の施工区域内における 14 地点で着床具を設置した。

平成 19、20 年度の調査結果は表-1.6.1に示すとおりであり、大浦湾東側の St.9 では比較的頻繁に幼群体の着生がみられたが、他の地点では着生数が少なく、一定の分布傾向は認められなかった。



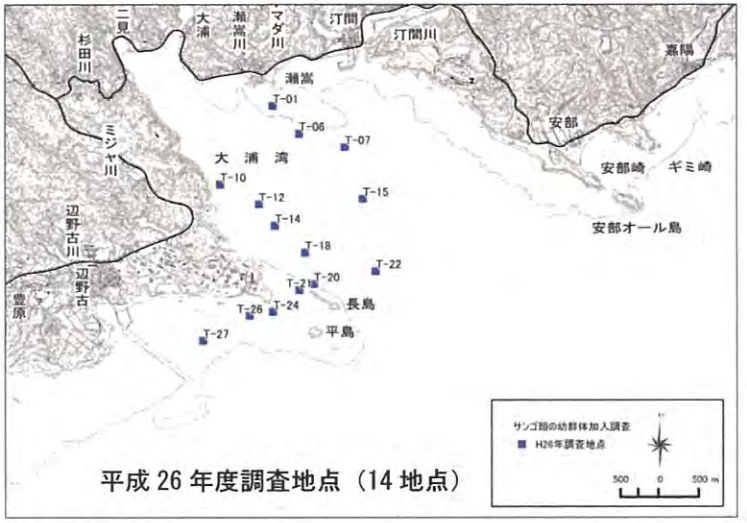


図-1.6.4　サンゴ幼体の加入状況調査地点

表-1.6.1　サンゴ幼体の加入状況調査結果（各地点とも着床具を 960 個設置し、各調査回次に 120 個を回収して計数した）

平成 19 年度調査結果

調査地点	設置(H19.5.18、19)	台風来襲に伴う移設(H19.7.10)	回収時の着床幼群体数 1回につき1ケース（120個）を回収				備考
	2架台(8ケース、960個)を設置	1架台(4ケース、480個)をT39に移設	第1回(H19.11.9、10)	第2回(H20.1.26、27)	第3回(H20.4.5)	第4回(H20.5.7～14)	
T1	○	－	1	1	0	1	
T2	○	－	0	0	1	0	
T3	○	－	0	0	0	0	
T4	○	－	1	0	0	0	
T5	○	－	0	0	0	0	
T6	○	－	0	0	0	0	
T7	○	－	0	0	0	0	
T8	○	－	0	0	0	0	
T9	○	－	2	2	3	0	
T10	○	－	0	0	0	0	
T11	○	－	－(台風来襲時に着床具が流失したため回収できず)				
T12	○	－	0	0	0	0	
T13	○	－	0	0	0	0	
T14	○	－	0	0	0	0	
T15	○	－	0	0	0	0	
T16	○	○	1	0	0	0	移設地点(T39)から回収
T17	○	○	1	0	2	1	
T18	○	－	0	1	4	1	
T19	○	○	0	0	0	0	移設地点(T39)から回収
T20	○	○	1	1	0	0	
T21	○	－	1	0	0	0	
T22	○	○	0	0	0	0	移設地点(T39)から回収
T23	○	○	0	1	0	1	移設地点(T39)から回収
T24	○	－	1	1	0	1	
T25	○	○	1	0	1	1	
T26	○	－	0	0	0	0	
T27	○	－	0	0	0	0	
T28	○	○	0	4	0	0	移設地点(T39)から回収
T29	○	○	1	0	0	0	移設地点(T39)から回収
T30	○	○	2	0	0	0	
T31	○	○	0	1	1	0	移設地点(T39)から回収
T32	○	○	0	0	0	0	移設地点(T39)から回収
T33	○	－	0	1	0	0	
T34	○	○	1	1	0	0	移設地点(T39)から回収
T35	○	○	0	0	0	0	移設地点(T39)から回収
T36	○	－	0	0	1	0	
T37	○	－	0	0	0	0	
T38	○	○	0	0	1	0	
着床幼群体の確認地点数			13	10	8	6	
着床幼群体の合計確認数			14	14	14	6	

平成 20 年度調査結果

調査地点	設置(H20.5.7、8、14)	台風来襲に伴う移設(H20.7.12、13)	回収時の着床幼群体数 1回につき1ケース（120個）を回収				備考
	2架台(8ケース、960個)を設置	1架台(4ケース、480個)をT39に移設	第1回(H20.8.24、25)	第2回(H20.10.20、22)	第3回(H20.12.12、14)	第4回(H21.2.4、5)	
T1	○	－	0	2	0	1	
T2	○	－	0	0	0	0	
T3	○	－	0	0	2	0	
T4	○	－	0	0	1	0	
T5	○	－	0	0	0	0	
T6	○	－	1	0	1	0	
T7	○	－	0	0	0	0	
T8	○	－	0	0	0	0	
T9	○	－	7	7	5	1	
T10	○	－	0	0	1	0	
T11	○	○	1	0	0	2	
T12	○	－	0	0	0	0	
T13	○	－	0	0	0	0	
T14	○	－	0	0	1	0	
T15	○	－	0	0	1	0	
T16	○	○	0	1	0	0	
T17	○	○	0	0	0	0	
T18	○	－	1	2	0	0	
T19	○	○	0	0	2	1	
T20	○	○	0	1	1	1	
T21	○	－	0	0	0	0	
T22	○	○	0	0	1	2	
T23	○	○	1	4	4	1	
T24	○	－	1	1	0	0	
T25	○	○	0	4	0	0	
T26	○	－	2	0	0	0	
T27	○	－	1	0	0	0	
T28	○	○	0*	1*	0*	3*	*移設地点(T39)から回収
T29	○	○	0	4	0*	1*	*移設地点(T39)から回収
T30	○	○	0	0	0	0	
T31	○	○	0	0	1**	0	**ケース欠損のため回収した着床具は96個
T32	○	○	1	0	0	0	
T33	○	－	0	0	0	0	
T34	○	○	0	0*	0*	0*	*移設地点(T39)から回収
T35	○	○	0	5	1	0	
T36	○	－	0	0	0	1	
T37	○	－	0	0	0	0	
T38	○	○	0	2	1	0	
T40	○	○	0	0	0	0	
T41	○	○	0	0	0	0	
T42	○	○	0	0	0	0	
T43	○	○	0	0	0	0	
着床幼群体の確認地点数			9	12	14	10	
着床幼群体の合計確認数			16	33	22	10	

注）平成 20 年度：第 3 回回収時に T31 において回収した着床具は、ケースが欠損していたため 96 個であった。なお、移設地点(T39)からも 1 ケースを回収して着床具(120 個)を確認したが、着床幼群体はみられなかった。

3) 調査地点・範囲の考え方

(a) サンゴ類の分布状況

サンゴ類の分布状況の調査範囲は、代替施設周辺海域に残存するサンゴ類の生育状況等の変化を把握するため、環境影響評価における現地調査を実施した区域（松田地先～嘉陽地先）と同じ範囲する。また、調査測線及び地点についても、工事の実施に伴い調査が不可能となる区域を除き、基本的には環境影響評価における現地調査と同じ位置とする。

(b) 移植サンゴの生息状況

調査範囲は事業実施区域における移植対象サンゴ群生の移植先海域とする。

サンゴ群生の移植については、移植・移築元調査の結果を踏まえ、移植・移築先の適性に関する詳細調査を実施し、移植・移築計画（案）をとりまとめた（別途「サンゴ移植・移築計画（案）」参照）。「サンゴ類の移植・移築計画（案）」によるサンゴ類の移植・移築元の範囲、移植・移築対象サンゴ類及び移植先の概要を以下に示す。

＊「サンゴ移植・移築計画（案）」では、サンゴ群生の移植について、小型サンゴ類は「移植」、大型サンゴ類は「移築」として区別して表現した。

a) 移植・移築元の範囲及び移植・移築対象サンゴ

(ｱ) 移植・移築元の範囲

サンゴ類の移植・移築元の範囲は、代替施設本体の設置に伴う改変区域内のうち、サンゴ類の人力採取が可能となる水深20m以浅の範囲とする。

(ｲ) 移植・移築対象サンゴ

ｱ) 移植対象とする小型サンゴ類

移植の対象とする小型サンゴ類は、総被度が5%以上で0.2ha以上の規模を持つ分布域の中にある長径10cm以上のサンゴ類とし、深浅測量及び潜水目視観察により確認した結果、16科60属74,304群体のサンゴ類が確認された。移植対象とする小型サンゴ類の分布域を図-1.6.5、移植対象とする小型サンゴ類の地区別、種類（属）別の群体数表-1.6.2を示す。

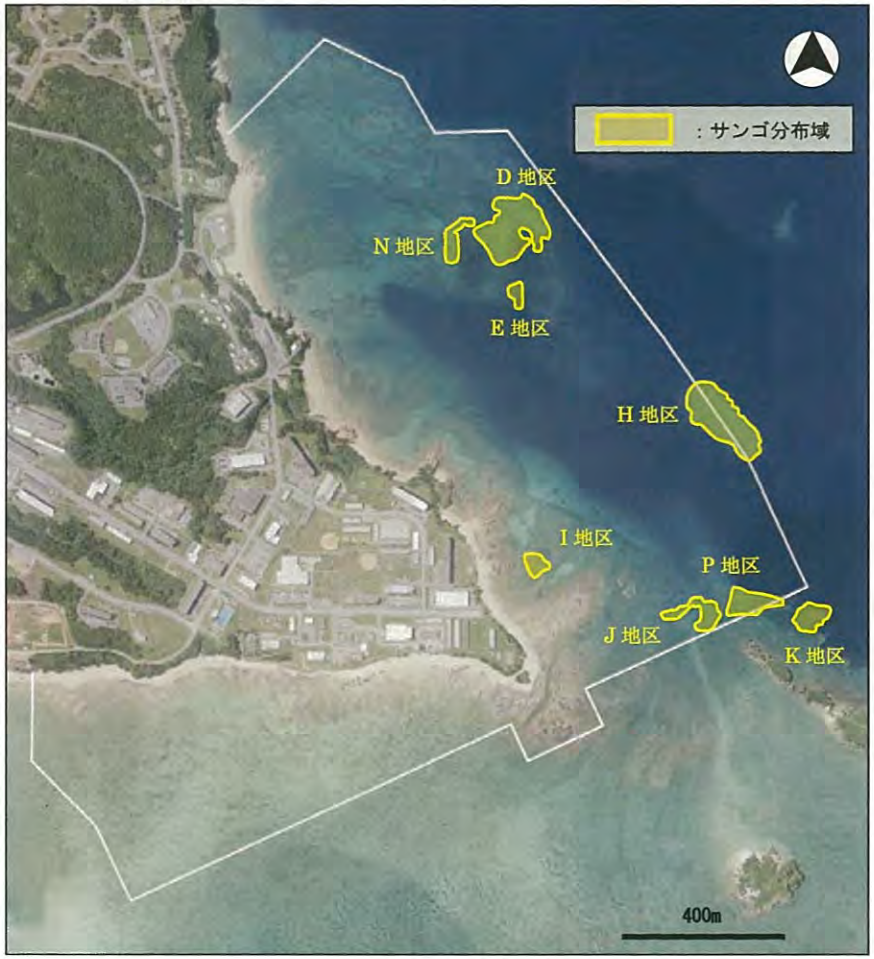


図-1.6.5　移植対象とする小型サンゴ類の分布域

表-1.6.2　移植対象とする小型サンゴ類の地区別、種類(属)別の群体数

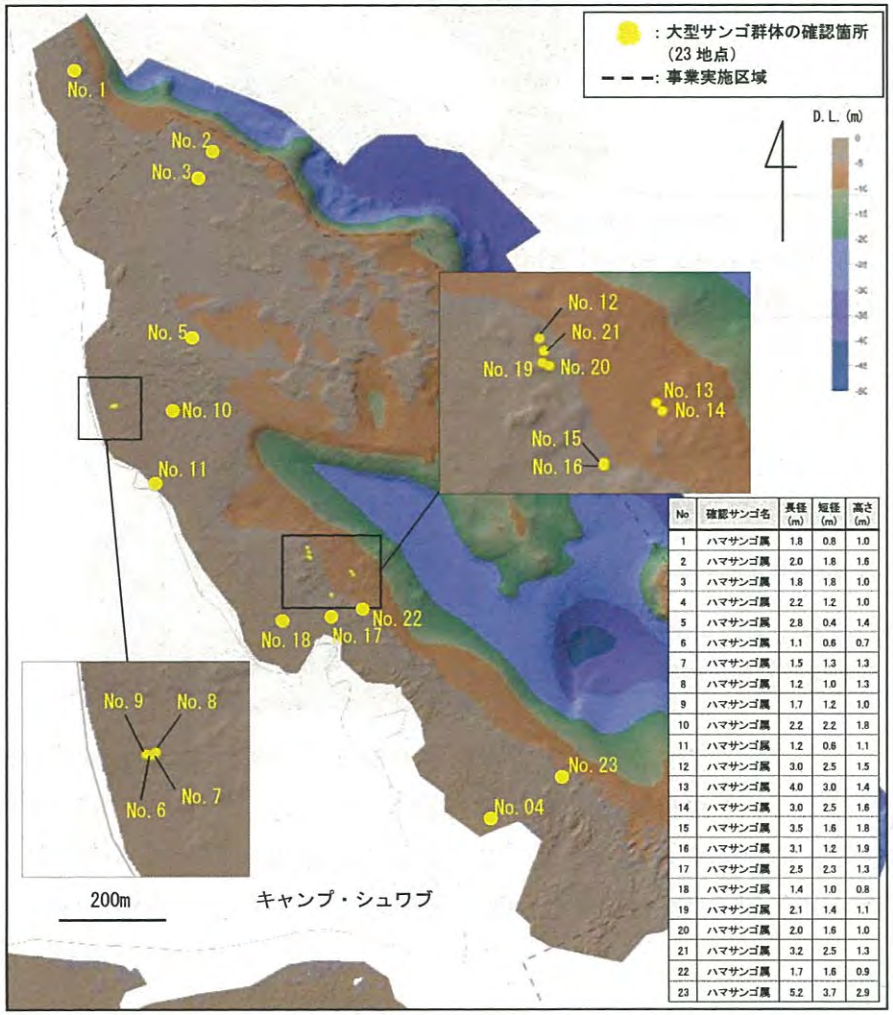
単位：群体

No.	属名		地区 D	E	H	I	J	K	N	P	合計
1	キクメイシ属		727	19	7,315	180	1,307	4,474	510	5,595	20,127
2	ハマサンゴ属		3,047	180	5,768	32	832	3,220	803	3,197	17,079
3	アナサンゴ属		1,261	31	2,460	4	876	587	177	1,818	7,214
4	コモンサンゴ属		805	12	1,060	4	1,980	416	108	2,453	6,838
5	トゲキクメイシ属		823	29	1,451	161	497	531	271	689	4,452
6	ノウサンゴ属		165	6	1,000	15	170	484	72	769	2,681
7	コカメノコキクメイシ属		112	8	760	32	234	503	65	760	2,474
8	カメノコキクメイシ属		145	4	346	291	203	231	75	583	1,878
9	ハナガタサンゴ属		41	1	476		244	308	45	697	1,812
10	スリバチサンゴ属		166	6	818		99	95	65	222	1,471
	その他の合計		806	145	2,931	175	772	1,194	225	2,030	8,278
	合計		8,098	441	24,385	894	7,214	12,043	2,416	18,813	74,304
11		マルキクメイシ属	92	4	482	10	91	137	21	272	1,109
12		キッカサンゴ属	17	10	423	0	101	79	13	345	988
13		アザミサンゴ属	59	3	411	1	117	59	33	162	845
14		アナサンゴモドキ属	127	10	224	75	80	19	41	50	626
15		ルリサンゴ属	18	0	107	62	110	20	3	228	548
16		サザナミサンゴ属	29	2	215	0	29	132	9	119	535
17		ダイノウサンゴ属	12	3	67	0	45	55	42	205	429
18		オオトゲキクメイシ属	4	1	133	4	30	71	2	63	308
19		リュウモンサンゴ属	44	4	68	0	8	99	1	76	300
20		クサビライシ属	141	54	15	0	0	71	0	17	298
21		オオサザナミサンゴ属	1	0	142	0	19	5	0	50	217
22		ミドリイシ属	16	1	98	2	35	17	9	40	217
23		イボサンゴ属	12	4	73	4	14	43	5	53	208
24		バラバットサンゴ属	6	0	70	0	40	12	3	63	194
25		ハナガササンゴ属	32	1	30	2	10	66	1	35	177
26		ハナヤサイサンゴ属	7	0	97	4	12	10	23	3	156
27		ナガレサンゴ属	11	1	65	1	8	24	0	41	151
28		リュウキュウキッカサンゴ属	4	0	8	0	0	93	2	24	131
29		タバネサンゴ属	3	0	47	0	3	20	0	23	96
30		キュウリイシ属	62	3	9	0	0	11	0	3	88
31		スジウミバラ属	3	0	19	0	2	24	0	28	76
32		カワラサンゴ属	2	5	15	0	2	11	2	36	73
33	その他の内訳	トゲクサビライシ属	15	19	16	0	0	16	0	2	68
34		ムカシサンゴ属	20	2	12	0	0	3	3	21	61
35		ウミバラ属	12	5	3	0	0	19	0	15	54
36		ナガレハナサンゴ属	2	0	15	0	3	23	0	6	49
37		シコロサンゴ属	15	1	8	3	1	7	6	7	48
38		アナキッカサンゴ属	1	0	23	0	0	8	0	7	39
39		ウスカミサンゴ属	15	0	3	0	0	9	0	1	28
40		コマルキクメイシ属	4	0	10	0	0	6	0	8	28
41		アミメサンゴ属	6	0	2	1	8	3	4	3	27
42		ヘルメットイシ属	5	7	3	0	0	8	1	0	24
43		ヤスリサンゴ属	0	3	3	1	0	2	0	8	17
44		ミズタマサンゴ属	4	2	5	0	0	0	0	0	11
45		オオナガレサンゴ属	1	0	4	0	0	0	0	4	9
46		ヒラフキサンゴ属	1	0	0	0	1	3	1	3	9
47		アワサンゴ属	0	0	1	0	0	0	0	3	4
48		キクメイシモドキ属	0	0	0	3	1	0	0	0	4
49		タバサンゴ属	0	0	1	0	0	3	0	0	4
50		ヨロンキクメイシ属	0	0	0	0	0	2	0	2	4
51		オオハナサンゴ属	0	0	2	0	0	1	0	0	3
52		センベイサンゴ属	1	0	1	0	0	1	0	0	3
53		アザミハナガタサンゴ属	0	0	0	0	0	0	0	2	2
54		イシナマコ属	2	0	0	0	0	0	0	0	2
55		コハナガタサンゴ属	0	0	0	0	0	0	0	2	2
56		ダイオウサンゴ属	0	0	0	0	0	2	0	0	2
57		トゲサンゴ属	0	0	0	2	0	0	0	0	2
58		クダサンゴ属	0	0	0	0	1	0	0	0	1
59		トゲミドリイシ属	0	0	0	0	1	0	0	0	1
60		マンジュウイシ属	0	0	1	0	0	0	0	0	1

優占種の凡例）
：第一優占種
：第二優占種
：第三優占種

ｲ) 移植対象とする大型サンゴ類

移植の対象とする大型サンゴ類は、長径が 1mを超える群体とし、深浅測量及び潜水目視観察により確認した結果、23 群体の移築対象となる大型サンゴ類が確認された。移植対象とする大型サンゴ類の諸元と位置を図-1.6.6に示す。



No	確認サンゴ名	長径 (m)	短径 (m)	高さ (m)
1	ハマサンゴ属	1.8	0.8	1.0
2	ハマサンゴ属	2.0	1.8	1.6
3	ハマサンゴ属	1.8	1.8	1.0
4	ハマサンゴ属	2.2	1.2	1.0
5	ハマサンゴ属	2.8	0.4	1.4
6	ハマサンゴ属	1.1	0.6	0.7
7	ハマサンゴ属	1.5	1.3	1.3
8	ハマサンゴ属	1.2	1.0	1.3
9	ハマサンゴ属	1.7	1.2	1.0
10	ハマサンゴ属	2.2	2.2	1.8
11	ハマサンゴ属	1.2	0.6	1.1
12	ハマサンゴ属	3.0	2.5	1.5
13	ハマサンゴ属	4.0	3.0	1.4
14	ハマサンゴ属	3.0	2.5	1.6
15	ハマサンゴ属	3.5	1.6	1.8
16	ハマサンゴ属	3.1	1.2	1.9
17	ハマサンゴ属	2.5	2.3	1.3
18	ハマサンゴ属	1.4	1.0	0.8
19	ハマサンゴ属	2.1	1.4	1.1
20	ハマサンゴ属	2.0	1.6	1.0
21	ハマサンゴ属	3.2	2.5	1.3
22	ハマサンゴ属	1.7	1.6	0.9
23	ハマサンゴ属	5.2	3.7	2.9

図-1.6.6　移築対象とする大型サンゴ類の諸元と位置

b）移植・移築先

サンゴ類の移植・移築先は、評価書で提案されている範囲（中干瀬、辺野古崎前面海域）を対象として、水深、底質等の環境条件から具体の移植・移築先箇所を決定した。ナローマルチビーム測深機を用いた深浅測量を行い、海底地形（微地形）を詳細に検討した結果、図-1.6.7に示すように、辺野古崎前面海域は底質が主に砂礫でサンゴ類の生息条件として好ましくないことから、移植・移築先は、中干瀬を対象として絞り込みを行うものとした。

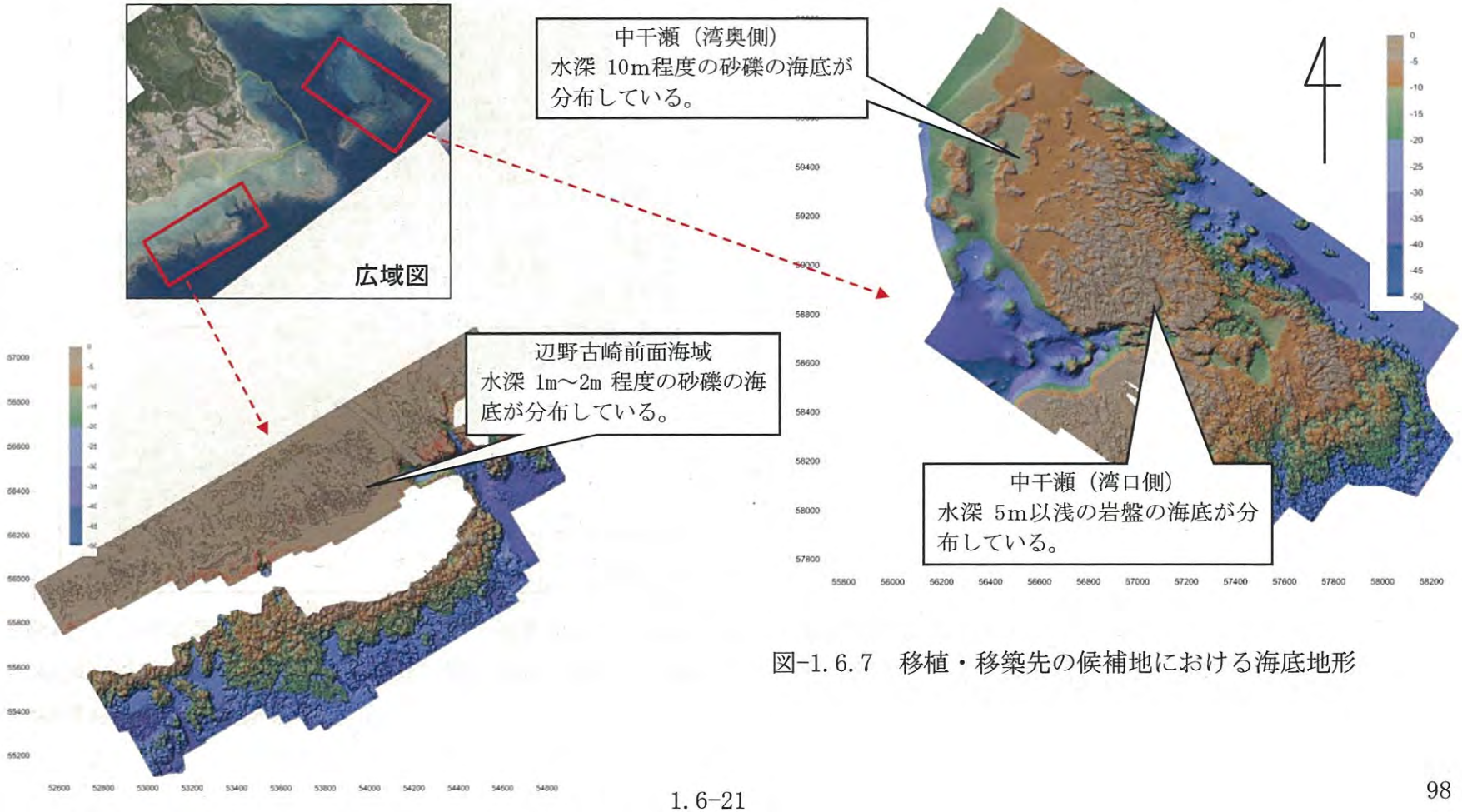


図-1.6.7　移植・移築先の候補地における海底地形